

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

工業炉設備の燃料転換

(LPG→LNG)

排出削減事業者名：吉野石膏株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

その他関連事業者名：

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	吉野石膏株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	吉野石膏株式会社
住所	〒799-1503 愛媛県今治市富田新港 1-1-1
排出削減事業共同実施者	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

工業炉設備の燃料転換（LPG→LNG）

2.2 排出削減事業の目的

焼成工程の焼成炉 1 基及び乾燥炉 2 基のLPGバーナーをLNG用に改造することにより、CO₂削減を図る。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

サテライト設備のLPGからLNGへの更新と、工場全体の炉設備のバーナーをLPGからLNGに改造することによる生産性の向上及び、燃料の種類を変えることの両面からCO₂排出量の削減を図る。

(備考)排出削減事業に関わる設備について記入する。

例) 高効率設備への更新

LPG焼成工程設備からLNG焼成工程設備への更新プロジェクトの設備概要

注) 設備更新の場合は、次の様式に従って、排出削減事業に関わる設備について記載のこと。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2011 年 4 月 1 日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2018 年 12 月 1 日 ～ 2019 年 3 月 31 日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
003	工業炉の更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

対象	活動量	原単位
ベースラインエネルギー 消費量 (MJ)	生産量 (t)	エネルギー使用量 (MJ)
		生産量 (t)

4.2.2 活動量の採用根拠

焼成工程におけるエネルギー消費量は、生産量に連動することから、生産量を活動量として採用した。

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

事業の範囲は、燃料供給設備から焼成工程の焼成炉、乾燥炉 A、乾燥炉 B までとする。

5 モニタリング対象指標

排出削減事業計画 7.1 項を参照して記載。記載内容に変更のある場合、変更理由を項目ごとに記載すること。

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更ある場合) 変更理由
$F_{fuel,PJ}$	焼成炉更新事業実施後の燃料使用量	t/年	2018年度：1,200.3	ガスメータの計測値を原単位集計表に集計し算定	変更なし
$HV_{fuel,PJ}$	事業実施後燃料の単位発熱量	GJ/t	2018年度：54.5	デフォルト値 (LNG)	変更なし
G_P	事業実施後のエネルギー原単位	MJ/t	2018年度：1,015.3	原単位集計表より算定 <算式> 燃料使用量 ÷ 生産量 × 単位発熱量	変更なし
G_B	事業実施前のエネルギー原単位	MJ/t	2018年度：1,226.9	原単位集計表より算定 <算式> 燃料使用量 ÷ 生産量 × 単位発熱量	変更なし
$CF_{fuel,Pj}$	事業実施後燃料(LNG)の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2018年度：0.0513	デフォルト値 (LNG)	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前燃料(LPG)の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2018年度：0.0601	デフォルト値 (LPG)	変更なし

6 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2018 年度	1,200.3	54.5	0.0513	3,355.8
単位	t	GJ/t	tCO2/GJ	tCO2
	EM _{PJ}			3,355.8

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2018 年度	79,051.4	—	0.0601	4,751.0
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
	EM _{BL}			4,751.0

6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2018 年度	0			0
	LE			0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	4,751.0
事業実施後排出量 (7.1)	EM _{PJ}	3,355.8
リークエージ排出量 (7.3)	LE	0
温室効果ガス排出削減量	ER	1,395

7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

原油換算 (kl)		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン - 実績 (①-②)
2,043.3	1,690.8	352.6

省エネルギー量 (原油換算) = 352.6 kl

熱量換算及び原油換算において用いる換算係数については、エネルギー使用の合理化に関する法律 (省エネ法) 施行規則第 4 条に規定する換算係数を使用すること。

8 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
		エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)
	単位			